

志賀町民センター

COMMUNITY CENTER OF SHIGA TOWN

所在地: 滋賀県滋賀郡志賀町大字高城12

建築主: 志賀町

設計者: 株式会社徳岡昌克建築設計事務所

施工者: 戸田建設株式会社

竣工: 1988年3月19日

Location : Shiga-cho, Shiga Prefecture

Owner : Shiga Town

Architects : Masakatsu Tokuoka Architects

Contractors : Toda Corporation

Completion date : March, 1988



▲エントランス回り Entrance.



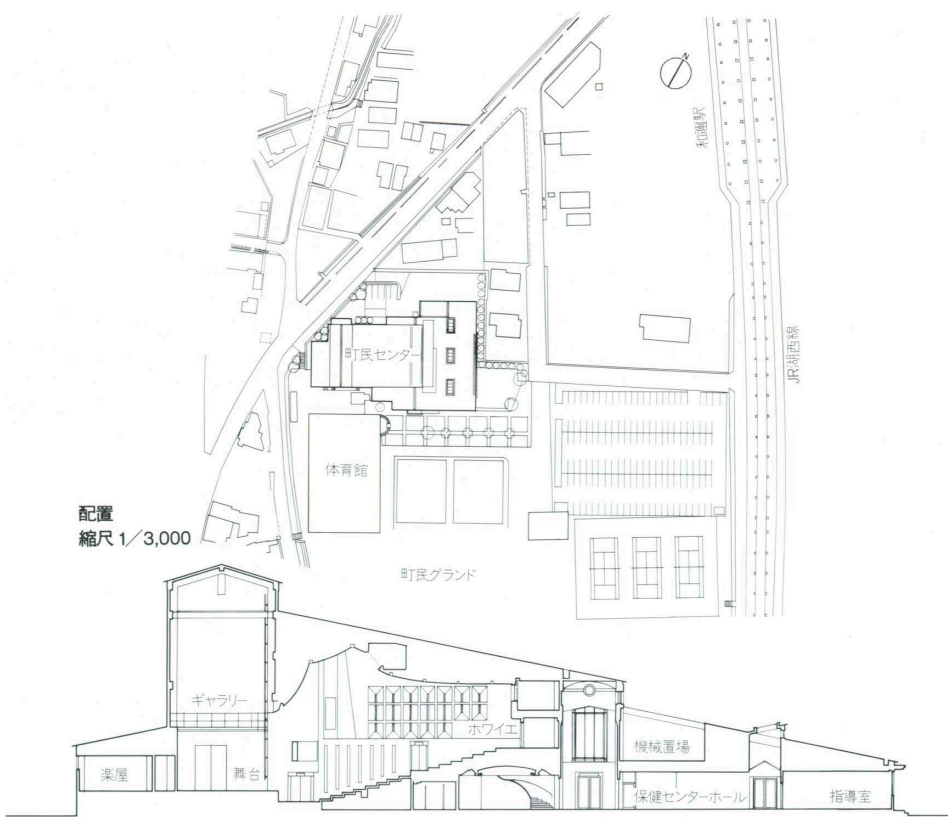
▲東側外観 East side



▲ホール Auditorium.



◀玄関ホール Entrance hall. ▲ホワイエ Foyer.



▲中庭 Light court.

#### ■建築概要

敷地面積 4,140㎡

建築面積 2,069㎡

延床面積 2,536㎡

構造 鉄筋コンクリート造 (文化ホール  
梁:鉄骨造) 杭・基礎:PHC B種(セ  
メントミルク工法)

規模 地上3階

工期 1987年6月～1988年3月

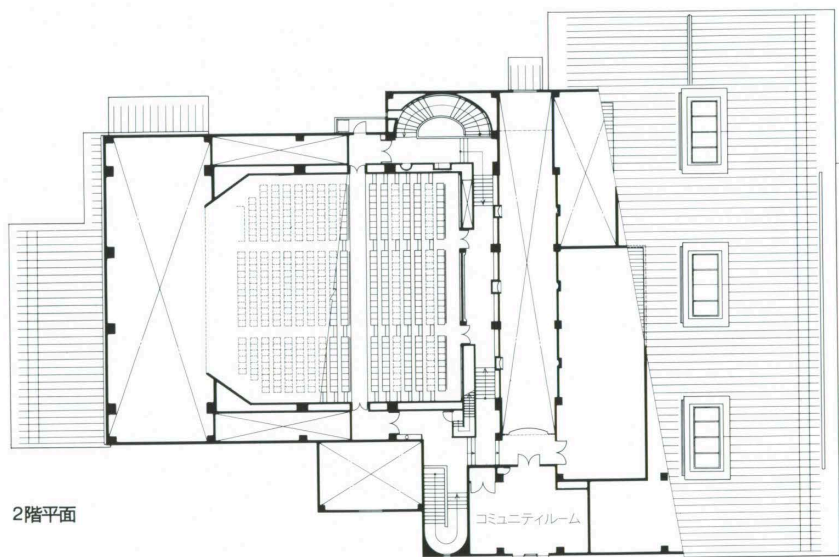
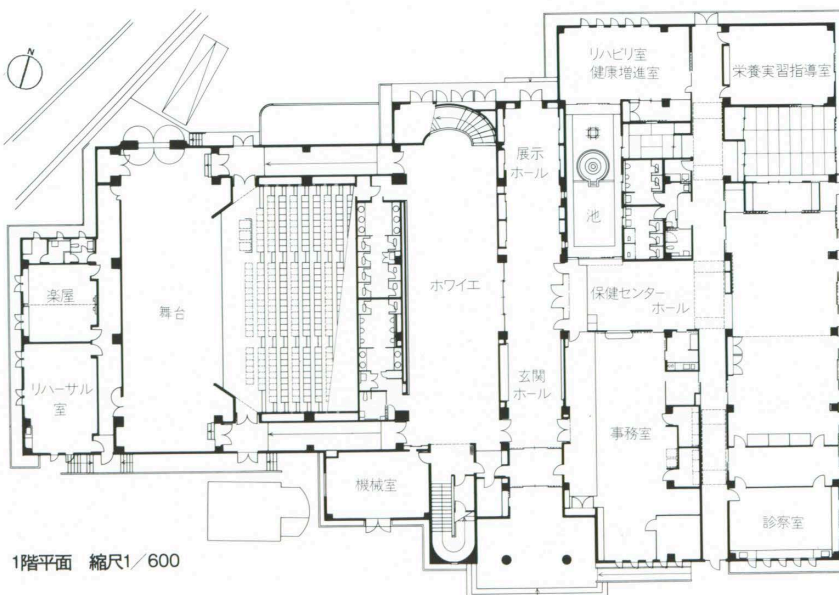
#### ■仕上げ概要

外部仕上げ 屋根:アスファルトルーフィング  
22kg、パーライトモルタル⑦35mm、銅板瓦棒葺  
き(生板) 外壁:珪酸質タイル、コンクリート打  
放し、カラークリヤー吹付け 外構:人研平板ブ  
ロック+煉瓦舗装 建具:アルミサッシュ(ジュ  
ラクロン)、スチールサッシュ(OP)

内部仕上げ [展示ホール玄関] 床:テラゾー  
ブロック 壁・天井:コンクリート打放し [文  
化ホールホワイエ] 床:フローリングブロック  
壁:PB⑦12mm下地ペンキ下地布貼りVP 天  
井:PB⑦12mmVP [文化ホール客席] 床:ニー  
ドルパンチ⑦4mm、ビニール床タイル⑦2mm  
壁:有孔珪酸カルシウム板⑦6mm下地天然木  
化粧シート、コンクリート打放し 天井:PB⑦9  
mm下地天然木化粧シート

#### ■設備概要

空調 熱源:吸収式冷温水発生機(灯油焚)100  
RT(50+50)、再熱コイル用温水ボイラー 方  
式:単一ダクト方式、ベースボードヒーター(ド  
ラフト防止)、パッケージエアコン、温水式暖房  
衛生 給水:町水道直圧給水 給湯:局所給湯方  
式 排水:屋内分流出外合流にて合併処理槽へ  
消火 屋内消火栓設備  
排煙 客席:機械排煙 その他:自然排煙



## 選評

近江 栄・櫻井 清・鮎川一哉

志賀町は、東に琵琶湖、西に比良の山並みという背景の中にある人口約16,000人の町であり、この志賀町民センターは、町の文化振興の核となることを願ってつくられた建築であり、文化ホールと保健センターとで構成されている。

文化ホールの種類の施設は、ややもするとその利用率がそれ程高くない状況となり、結局は日常的に親しまれることのない施設となってしまうことがある。この町民センターでは、その問題を解決して、町民に日常的に親しまれるための施設構成をつくることに企画の段階から大きなテーマとして取り組み、文化ホール、保健センター、町の支所という三つの全く異なった機能を合築するという企画がつくられた。この事柄は、各施設に対する予算、補助金、財産区分、主管官庁等と、お役所的に考えれば、大変な難問が多い筈の企画にあえて取り組んで、実効のある町民センターを作り上げようと努力をされた建築主である志賀町の方々に敬意を表したい。

設計者は、町としての人づくりに健康と文化の分野から、その役割を果たす施設をつくり、町の発展のシンボルとしたいという建築主の意気込みが、この建築の中核をなしており、コネクション部分であるエントランス・ホールにデザインの思い入れを集中している。

このエントランス・ホールを中心として両側に文化ホールと保健センターを配することにより、エントランス・ホールが日常の利用空間として活かしている。このエントランス・ホールのデザインは、きわめてディテールの多い打放しコンクリートによって行われているが、その施工精度もきわめて優秀である。現場打ちによる打放しコンクリートとしては、非常に困難なディテールデザインがされているが、施工者は、それ等を実現すべき命題と捉えて、大変な熱を入れて工事に取り組んだようである。

建築全体は、銅板瓦棒葺きの切妻屋根により、のびのびとしてリズムを構成しており、環境の中に気持ちよく調和している。外壁のカラークリアー塗料をかけた打放しコンクリートと珪酸質タイルとの調和も落ち着いた雰囲気を作り出している。

派手なアピールは無く、むしろ地味な建築だが、発注者、設計者、施工者が、それぞれの立場で強い思い入れと、大変な努力と、深い愛情をもって一つの仕事を成し遂げ、一つの建築として具体的に結実した作品であるということに、受賞作品として取り上げようという評価が与えられた。

## REVIEW

Sakae Omi, Kiyoshi Sakurai, Kazuya Ayukawa

The town of Shiga-cho (population about 16,000) faces Lake Biwa on the east and the Hira Mountains on the west. Created with the aim of promoting local culture, this community center houses both an auditorium and a health center. Cultural auditoriums often fail to be used frequently and therefore lose touch with the local people. This problem was a serious matter of consideration from the initial planning stage of this institution. Combining three totally distinct functions—auditorium, health center, and town branch office—in one building was one step taking to solve it. The client—the town of Shiga-cho—deserves great respect for undertaking to build an effective municipal center involving complicated planning related to budgets for all three functions, subsidies, property apportionment, and official supervision.

The client wished to build a center that would combine the cultural and health aspects of citizen cultivation while symbolizing town development. The designer accepted the idea and concentrated the symbolic element in the design of the entrance hall, which serves as a connective link between the auditorium and the health center. In this location, because of the heavy daily use it receives, the hall has an activating influence on the whole building. On-site pouring of the concrete for the elaborate details of its design was extremely difficult. But the contractor performed his task with great enthusiasm.

The relaxed, rhythmical overall composition includes copper-clad gabled roofs that harmonize well with the surroundings, as do the clear-lacquer-finished concrete and ceramic tiles of the exterior walls.

Great consideration, effort, and affection were devoted by client, designer, and contractors to the creation of this piece of calm, refined architecture.